別紙様式－１４－１

舗装工事データ（データコード：0601）記入シート

平成　19　年　3　月

事務所	出張所	作成年月日	整理番号

主任監督員
作成者

◆記入要領◆
・該当コード番号を○で囲む。
・□□欄は数値・コードを記入し、不明の場合は「*」を記入する。

1. 路線名

路線番号　現旧新　枝番号

→1:現道　2:旧道　3:新道

路線名称（枝番がある時、バイパス名等を記入する）

2. 上り下り区分

1：上り　3：上下
2：下り

3. 車線（車線区分＋車線番号）

（車線番号はセンター側から数えた車線位置番号）

コード	車線区分	コード	車線区分
1	本線	5	左折車線
2	登坂車線	6	加減速車線
3	ゆずり車線	7	副道
4	右折車線	ランプコード	連結路（ランプ）

4. 距離標

〔自〕　キロポスト　k　キロポストからの実距離　m　－　〔至〕　キロポスト　k　キロポストからの実距離　m

5. 施工延長

m

6. 施工面積

m²

7. 工事実績・計画区分

1：実績（工事完了）
2：計画（工事計画）

8. 工事発注方式

1：仕様規定
2：性能規定
3：総合評価
9：その他
*：不明

9. 工事種別

10：改築工事
20：維持工事
30：修繕工事
41：占用工事（ガス）
42：占用工事（電気）
43：占用工事（上水道）
44：占用工事（下水道）
50：請願工事
99：その他
**：不明

10. 補修理由（2つまで選択可）

1：舗装破損（ひび割れ）
2：舗装破損（わだち掘れ）
3：舗装破損（平たん性）
4：舗装破損（骨材飛散）
5：舗装破損（その他）
6：占用復旧
7：通報（段差）
8：通報（振動）
9：通報（騒音）
10：通報（その他）
99：その他
**：不明

11. 要求性能（2つまで選択可）

1：一般走行性
2：すべり止め
3：排水性
4：透水性
5：路面温度上昇抑制
6：明色性
7：着色性・色彩機能
8：騒音防止・抑制
9：流動対策
10：摩耗対策
11：支持力強化
12：凍結抑制
13：長寿命対策
14：排気ガス浄化対策
15：温度応力クラック抑制対策
16：リフレクションクラック抑制対策
17：骨材飛散対策
99：その他
**：不明

12. 施工年月

元号　年　月

H

13. 新設・補修・在来区分

1：新設工事
2：補修工事
3：在来

14. 施工方法

10：新設
20：打換え工法
21：上層路盤打換え工法
22：表層・基層打換え工法
23：局部打換え工法
30：オーバーレイ工法
31：薄層オーバーレイ工法
32：わだち部オーバーレイ工法
33：表面処理工法
34：薄層コンクリート舗装工法
35：シール材注入工法
40：切削工法
41：切削オーバーレイ工法
42：切削薄層オーバーレイ工法
43：切削表面処理工法
44：切削薄層コンクリート舗装工法
50：路上表層再生工法(リミックス)
51：路上表層再生工法(リペーブ)
52：路上路盤再生工法
99：その他
**：不明

15-1. 各種舗装の構造別分類

10：サンドイッチ舗装
11：コンポジット舗装
12：フルデプスアスファルト舗装

15-2. 特殊技術を用いた舗装

20：シックリフト工法
21：中温化技術
22：スリップフォーム工法

15-3. 各種舗装の材料別分類

30：半たわみ性舗装
31：ロールドアスファルト舗装
32：フォームドアスファルト舗装
33：砕石マスチック舗装
34：ポーラスアスファルト舗装
35：保水性舗装
36：遮熱性舗装
37：透水性舗装
38：プレキャストコンクリート版舗装
39：薄層コンクリート舗装
40：小粒径骨材露出舗装
41：ポーラスコンクリート舗装
42：連続鉄筋コンクリート舗装
43：プレストレストコンクリート舗装
44：転圧コンクリート舗装

16. 路面種別

1：アスファルト舗装(As)
2：ポーラスアスファルト舗装(Po)
3：コンクリート舗装(Co)

17. 切削（掘削）　.　cm

18. 打換率　.　%

19. 空隙率　.　%

[舗装構成]　（20～23. は下記のコード表より記入する　24. 厚さは1cm単位で記入する）

	表　層	中間層	基　層	上層路盤		下層路盤	路　床	
				レベリング	レベリング		凍上層	遮断層
20.再生材								
21.材料種類								
22.材料名								
23.最大粒径								
24.厚さ(cm)								

20. 再生材

コード	再生材	コード	再生材
0	未使用	2	再々生
1	再生	*	不明

21. 材料種類　（材料種類コードが50～74の場合、材料名は空白とする）

コード	材料種類	適用箇所 表層	基層	路盤	路床	コード	材料種類	適用箇所 表層	基層	路盤	路床
10	粗粒度アスファルト混合物	○	○			32	表面充填材	○			
11	密粒度アスファルト混合物	○	○			33	多孔質弾性舗装材料	○			
12	細粒度アスファルト混合物	○	○			40	瀝青安定処理			○	
13	密粒度ギャップアスファルト混合物	○	○			41	セメント・瀝青安定処理			○	
14	細粒度ギャップアスファルト混合物	○	○			42	セメント安定処理			○	○
15	開粒度アスファルト混合物	○	○			43	石灰安定処理			○	○
16	グースアスファルト混合物		○			50	粒度調整砕石			○	
17	ロールドアスファルト混合物	○	○			51	粒調鉄鋼スラグ			○	
18	大粒径アスファルト混合物	○	○			52	水硬性粒調鉄鋼スラグ			○	
19	半たわみ性アスコン	○	○			60	クラッシャラン			○	
20	ポーラスアスファルト混合物	○	○			61	切込砂利			○	
21	アスファルトモルタル	○				62	砂利			○	○
22	表面処理用アスコン	○				63	クラッシャラン鉄鋼スラグ			○	
23	シート防水	○				64	玉砕			○	○
24	塗り防水	○				65	砂			○	○
25	瀝青材防水	○				70	切土				○
26	マイクロサーフェシング	○				71	盛土				○
27	砕石マスチック(SMA)	○	○			72	置換				○
28	保水性アスコン	○				73	発泡スチロール				○
29	シール材	○				74	ジオテキスタイル				○
30	セメントコンクリート	○	○	○	○	99	その他（　　）	○	○	○	○
31	表面塗布材	○				**	不明	○	○	○	○

22. 材料名

コード	材料名	コード	材料名	コード	材料名
01	ストアス	17	アスファルト乳剤	41	セメント
11	改質アスⅠ型	20	樹脂系結合材	42	石灰
12	改質アスⅡ型	21	エポキシアスファルト	99	その他
13	改質アスH型	22	加熱式注入目地・シール材	**	不明
14	その他の改質アス	23	常温式注入目地・シール材		
15	セミブローンアス	30	添加剤		
16	硬質アスファルト	40	乳剤・セメント		

23. 最大粒径

コード	最大粒径(mm)	コード	最大粒径(mm)	コード	最大粒径(mm)
01	2.5	07	2.5F	13	30
02	5	08	5F	14	40
03	8	09	8F	99	その他
04	10	10	10F	**	不明
05	13	11	13F		
06	20	12	20F		

25. T_A　.　cm

26. CBR　.　%

27. 路床改良の有無

1：改良有
2：改良無
*：不明

28. 路床構築の有無

1：構築有
2：構築無
*：不明

29. 舗装設計法

1：経験に基づく設計法（TA法）
2：経験に基づく設計法（TA法以外）
3：理論設計法（多層弾性理論）
4：理論設計法（その他）
5：コンクリート（土木研究所式）
9：その他
*：不明

30. 疲労破壊輪数

設計期間　年
舗装計画交通量　台／日
疲労破壊輪数　千回
確認方法　1：促進載荷装置による繰り返し載荷試験
2：供試体による繰り返し載荷試験
3：過去の実績
4：舗装の構造に関する技術基準・同解説　別表1
5：舗装の構造に関する技術基準・同解説　別表2

31.塑性変形輪数

道路の区分　1：第1種、第2種、第3種第1級及び第2級並びに第4種第1級
2：その他
舗装計画交通量　台／日
塑性変形輪数　回／mm
確認方法　1：促進載荷装置による繰り返し載荷試験
2：供試体による繰り返し載荷試験
3：ホイールトラッキング試験
4：過去の実績

32. 平たん性

測定方法　1：3mプロフィルメータによる方法
2：3m直線定規による方法
3：路面性状測定車による方法
9：その他
凹凸量の標準偏差1　.　mm
凹凸量の標準偏差2　.　mm
(標準偏差1:平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外しない値)
(標準偏差2:平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外した値)

33. 浸透水量

測定方法　1：現場透水量試験器
9：その他
道路の区分　1：第1種、第2種、第3種第1級及び第2級並びに第4種第1級
2：その他
浸透水量　わだち部（OWP）　ミリリットル／15秒
非わだち部（BWP）　ミリリットル／15秒

34. 舗装工事名（全角・2バイト文字）

35. 施工業者名（全角・2バイト文字）

36. プラント名（全角・2バイト文字）

性能規定データ（データコード：0602）記入シート

平成　19　年　3　月

事務所		出張所		作成年月日		整理番号	

別紙様式－１４－２

主任監督員
作成者

◆記入要領◆
・該当コード番号を○で囲む。
・□□欄は数値･コードを記入し、
不明の場合は「*」を記入する。

1．路線名

路線番号　現旧新　枝番号

→1:現道　2:旧道　3:新道

路線名称（枝番がある時、バイパス名等を記入する）

2．上り下り区分

1：上り　　3：上下

2：下り

3．車線（車線区分＋車線番号）

（車線番号はセンター側から数えた車線位置番号）

コード	車線区分	コード	車線区分
1	本線	5	左折車線
2	登坂車線	6	加減速車線
3	ゆずり車線	7	副道
4	右折車線	ランプコード	連結路（ランプ）

4．距離標

〔自〕　キロポスト　k　キロポストからの実距離　m　－　〔至〕　キロポスト　k　キロポストからの実距離　m

5．施工年月

元号　年　月

H

6．性能確認時期

1：施工直後

2：1年後

9：その他

7．平たん性　元号　年　月

測定年月　H

測定方法　1：3mプロフィルメータによる方法

2：3m直線定規による方法

3：路面性状測定車による方法

9：その他

凹凸量の標準偏差1　．　mm

凹凸量の標準偏差2　．　mm

(標準偏差1:平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外しない値)

(標準偏差2:平たん性の障害となるマンホール等の部分のデータを除外した値)

8．浸透水量　元号　年　月

測定年月　H

測定方法　1：現場透水量試験器

9：その他

道路の区分　1：第1種、第2種、第3種第1級及び第2級並びに第4種第1級

2：その他

浸透水量

わだち部（OWP）

ミリリットル／15秒

非わだち部（BWP）

ミリリットル／15秒

9．すべり抵抗　元号　年　月

測定年月　H

測定方法　1：すべり抵抗測定車

2：回転式すべり抵抗試験機（ＤＦテスタ）

3：振り子式スキッドレジスタンステスタ

9：その他

路面温度　℃

速度1　km／h　すべり摩擦係数1　．

速度2　km／h　すべり摩擦係数2　．

速度3　km／h　すべり摩擦係数3　．

10．路面騒音　元号　年　月

測定年月　H

測定方法　1：関東地方整備局所有の路面騒音測定車

2：近畿地方整備局所有の路面騒音測定車

3：九州地方整備局所有の路面騒音測定車

4：中国地方整備局所有の路面騒音測定車

5：道路建設業協会所有の路面騒音測定車

9：その他

測定車両の平均速度　．　km／h

気温　℃

路面温度　℃

路面騒音値　．　デシベル

11．わだち掘れ　元号　年　月

測定年月　H

測定方法　1：横断プロフィルメータによる方法

2：直線定規による方法

3：水糸による方法

4：路面性状測定車による方法

9：その他

わだち掘れ量（最大値）　mm

わだち掘れ量（平均値）　mm